

秋田駒ヶ岳・森吉山・焼石岳山行報告

【山行日】2020年 6月 13～15日(土～月)

【集 合】栃木市運動公園P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 33,000円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西 安西、石澤、
島田、関、鶴見、福島

13日 晴れ 栃木市運動公園を出発し、秋田駒ヶ岳の女目岳&男岳に登り森吉山荘へ

栃木市運動公園P3:00＝アルパこまくさ P8:20/8:49

＝八合目登山口 9:10/9:25～女目岳 10:45/10:55～

阿弥陀池避難小屋 11:10/11:40～男岳 12:20/12:30

～八合目登山口 13:20/13:30＝アルパこまくさ

13:55/14:10＝道の駅「あに」15:20/15:30＝森吉山荘 16:00

今回の山行のキッカケは、今年の友人からの賀状に三百名山夫婦同時達成と書かれており、ええーと驚き、即電話しました。友人に「色々登っているが、どこの山が良かった？」と質問しました。すると友人は、「北海道の山々も登山者が少なく静かで良いが……。秋田駒ヶ岳が一番かな。」との、返事でした。私は意外に思いましたが、何十年と登り続けている友人が良いと言っている山です。ぜひ、機会があれば私も登って見たいと、その時強く思いました。



そして、すぐにチャンスが巡って来ました。今回は、新型コロナウイルスの影響もあり心配もしましたが、天気にも恵まれて登頂する事が、出来ました。秋田駒ヶ岳は、標高は 1,637mとそれ程高くないですが、十和田八幡平国立公園南端の名山で、火山性高原です。早朝3時に栃木市運動公園を出発し、「アルパこまくさ」のバスターミナルに車を置きシャトルバスで八合目登山口に向かいました。八合目登山口から登り始め、ダイナミックなカルデラの爆裂火口や、カルデラ岳を目にしました。まだ残雪もあり、雪渓をトラバースして山腹を巻くように登って行きます。途中で展望が良い場所があり、田沢湖を見ることが出来ました。阿弥陀池のお花畑は見事で、特にチングルマ・イワガガミ・ミヤマキンバイ、ヒナザクラ、ハクサンチドリ等が最盛期で見ごろでした。最高峰の女目岳山頂からは、湿原が点在する、穏やかな、そして雄大な山岳景観を充分楽しめました。山頂から下りた所の避難小屋で昼食を食べました。避難小屋にはトイレがあり、とても助かりました。昼食が済んだら木道を歩き、阿弥陀池の反対側にある男岳に登ります。登山道の脇にシラネアオイの花が咲き、薄紫の花に癒されます。男岳山頂からの展望も素晴らしく、明日登る予定の吉森山や鳥海山などを見ることが出来ました。眼下には雪に埋まったムーミン谷や女岳、小岳の噴火口が見られ、大きな山だと感じられました。花が一番きれいな時季に登れ、天気にも恵まれた今回の登山はとても幸せだと感謝しました。

後で、秋田駒ヶ岳は6か所の登山コースがあると知り、初心者から上級者までOKみたいなので、また、いつの日か違うコースを歩いて見たいと思いました。



そして、すぐにチャンスが巡って来ました。今回は、新型コロナウイルスの影響もあり心配もしましたが、天気にも恵まれて登頂する事が、出来ました。秋田駒ヶ岳は、標高は 1,637mとそれ程高くないですが、十和田八幡平国立公園南端の名山で、火山性高原です。早朝3時に栃木市運動公園を出発し、「アルパこまくさ」のバスターミナルに車を置きシャトルバスで八合目登山口に向かいました。八合目登山口から登り始め、ダイナミックなカルデラの爆裂火口や、カルデラ岳を目にしました。まだ残雪もあり、雪渓をトラバースして山腹を巻くように登って行きます。途中で展望が良い場所があり、田沢湖を見ることが出来ました。阿弥陀池のお花畑は見事で、特にチングルマ・イワガガミ・ミヤマキンバイ、ヒナザクラ、ハクサンチドリ等が最盛期で見ごろでした。最高峰の女目岳山頂からは、湿原が点在する、穏やかな、そして雄大な山岳景観を充分楽しめました。山頂から下りた所の避難小屋で昼食を食べました。避難小屋にはトイレがあり、とても助かりました。昼食が済んだら木道を歩き、阿弥陀池の反対側にある男岳に登ります。登山道の脇にシラネアオイの花が咲き、薄紫の花に癒されます。男岳山頂からの展望も素晴らしく、明日登る予定の吉森山や鳥海山などを見ることが出来ました。眼下には雪に埋まったムーミン谷や女岳、小岳の噴火口が見られ、大きな山だと感じられました。花が一番きれいな時季に登れ、天気にも恵まれた今回の登山はとても幸せだと感謝しました。



リーダーの鈴木さん、サブリーダーの大西さん、島田さん、ご一緒した皆さんに感謝・感謝です。
大変お世話になりました。ありがとうございました。 M・A 記

14日 晴れ ヒバクラ登山口から山人平経由で森吉山頂をピストンで登り、ひめかゆ温泉へ
森吉山荘 5:30=ヒバクラ登山口 5:55/6:15~ヒバクラ分岐 8:30~山人平 9:05/9:15~森吉山
9:50/10:10~山人平 10:35/11:10~ヒバクラ分岐 11:40~ヒバクラ登山口 13:15/13:25=ひめかゆ温泉
18:20

初めはだらだら道

4:30に起床。5:00に朝食のお結び2個を頂き、その大きさにびっくり。中身は梅と鮭だそう。付いているのは直径3cm程のアルミホイルに入ったたくわん。きゅうりやチーズを配ってくださる方がいて、なんと



か食べることができた。1個は昼食用にと残した。ほとんどの方が1個は昼食用にしたようだった。登山口駐車場は10台位の広さだが仮設トイレがあった。有難い。何人かが利用する。

「初めはだらだら道。」と説明を聞き安心して歩き出す。緩やかな斜面の広い登山道を歩いていく。この日の天気予報はずっと雨だった。直前に奇跡的に晴れになった。「雨だったら反対側からゴンドラで登る。」と聞いていたのでそのつもりでいたらよい天気になり、皆さんから「嬉しい。」「よかった。」の声が聞こえる。

朝の6時台はまだ涼しく気持ちが良い。マイズルソウ、ミ

ツバオウレンの群落が続く。見事だ。イワカガミ、ツマトリソウ、タケシマラン、エンレイソウもあった。

木肌の綺麗なブナ林が続く。森が深く暗いのはやはり涼しくていいと思う。

そのうちコシアブラの若芽が多いことに気付いた。登山道の左右が刈り払われ、切られてしまった株からコシアブラの若芽が出ている。何本も見ているとコシアブラの木を見付けることができるようになった。

急登を登りヒバクラ湿原へ

水場を過ぎたところで目の前に山が現れた。あれに登るのかと思ったら、「あれはヒバクラ岳、巻いていく。」とのこと。間もなく急坂の階段が現れた。結構きついけど、まだ元気だから登れる。階段の途中の涼しい所で2回目の休憩。7時30分。だんだん暑くなる。

登り切った所がヒバクラ湿原。木道になり気持ちよく歩いて行く。涼しい風も吹き気持ちよく進む。

ヒナザクラが咲いている。丸い葉はイワイチョウ。まだ花は咲かないようだ。シラネアオイ、ゴゼンタチバナ、サンカヨウ、コバイケイソウもあった。

10分も歩くとヒバクラ岳分岐になった。右へ進む。ヒバクラ岳が後ろになった。

ミズバショウが可愛い。綺麗。たくさん出てくる。登山道にもミズバショウの芽が。水も綺麗だ。湿原の植物と実感する。

雪渓を進み山人平へ

小さな雪渓を見るようになり、沢を渡ると、いよいよ雪渓歩きになった。端は薄くなっているようで注意が必要。白い上にそっと足を置き、爪先で蹴るように進む。以前鼻曲山で登った経験が生きている。気持ちよく登っていく。所々踏み抜きそうになる個所があるが大丈夫。

急登を登り上げるとチングルマとヒナザクラの群落になった。まだ咲き初めだが十分楽しめる。

見とれながら進みベンチのような個所で写真を撮り休憩。ここは「山人平」とのこと。Sリーダーが「やまんどだいら」と言う。「えー？」と思う。



休憩のおやつはSリーダーのプリン。昨夜冷凍室にお願いしておいたのが程よく解けてて凄く美味しい！「山にはいいですねえ。」と皆さんが言う。自分も次回持参しようかな、と思った。歩き出すと確かに「山人平」の道標があった。「読み方は違うんじゃない。」「やまびとだいらでしょう。」と言いながら進む。

あとで調べたら、昔ここに「やまひと」という巨人がいたという伝説があったとのこと。人の名前なら「やまひと」だと納得した。ところがガイドブックによっては「やまびとだいら」のルビが。

あちこち調べて結論は「やまひとだいら」だと分かった。秋田駒ヶ岳の阿弥陀池、森吉山の山人平（やまひとだいら）、焼石山の姥石平東方、それぞれのお花畑が素晴らしい。

山人平は行けども行けどもチングルマ…。間にヒナザクラ、イワカガミ、イワナシも。花の最盛期はなかなか予想が付かないと聞く。その「さかり」に出会うのはとてもラッキーなことだと改めて思った。花畑が終わると登りになった。

最後の大きな雪渓を登る

雪解け水が流れる登山道を進み、目の前に大きな雪渓が現れた。Oサブリーダーがアイゼンを履くと言う。どうしようかと思ったが、表面がシャーベット状で登り易いように思われた。鼻曲山で登った自信もあったので、Sリーダーの後に続きツボ足で進んだ。

Sリーダーのつづら折りの踏み跡を見ながら、大変な個所は小刻みに。Sリーダーはどんどん進むが、無理せず自分のペースで登って行った。

10～15分位で雪渓は終わり、大きな岩の間を進むと山頂らしき場所が見えてきた。

山頂は貸し切り

山頂は360°の眺望。涼しくて気持ちいい。そして誰もいない。貸し切り。先ず休憩。

石仏を見ながらポーッと座っているとチェーンアイゼンのS田さん、T見さんが到着。続いて軽アイゼンのOサブリーダーとA西さん。全員揃ったところで写真撮影。

方位版を見ると、鳥海山、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳等が見えるはず、慣れないからどれがどれだかよく分からない。付き合わせているとおやつタイムに。

下りで見えたもの

20分の大休憩の後下山に。岩の間を歩き大きな雪渓に。Sリーダーの後に付き、かかとをうまく使いながら下りて行く。滑らないようにゆっくり慎重に。間が空いても気にしなかった。登りより表面の雪が解けていると感じながらリズムよく下りて行く。

雪解け水が勢いよく流れる岩場を過ぎ、ふと見るとマンサクの花が。まさかと思ったがSさんもマンサクと言う。よく見るとマンサクの木がそこらじゅうに。そこはマンサク平だった。

マンサクに感動し進むと、ミズバショウの湿原。小さな木道を歩き、改めてミズバショウを鑑賞。



そしてチングルマ。山人平に入ったと分かる。チングルマ、チングルマ、と堪能しながら昼食場所のベンチに着いた。昼食はSリーダーの塩ラーメン。体に沁み渡る美味しさ。山で食べるラーメンがこんなに美味しいとは…。十分満足。残りの大きなお結びは食べられなかった。楽しい昼食が終わり、また気持ちよく下りて行く。1か所だけの沢渡りもリズムよく渡れた。その時左側にリュウキンカがあるのをOサブリーダーが教えてくれた。登りでは沢渡りの足場探しで気が付かなかった。帰りは余裕が出て、周りを広く見ることができるようになっていた。

登り返しが心配だったが、休憩の後なので元気よく登れた。この辺りで樹木もなんか違うと思ったが滑ると嫌なので、口にしないでした。後で調べたら、アオモリトドマツ(オオシラビソ)。

登り返した辺りに立派なコシアブラの木が数本。これは登りでも分かっていたが、よく見ると奥の方にもコシアブラの木がたくさん。ここはコシアブラストリートだと思った。

ナナカマドもたくさんあった。秋は綺麗だろうなあ、と思った。

ヒバクラ岳分岐を過ぎ、ミズバショウを愛でて、急階段を下り樹林帯に入ると懐かしい感じがした。

だらだら道になると、朝はオオカメノキの白い花が咲いていたことを思い出した。それ以上に白い大きなモクレンのような花がたくさん現れた。Sリーダーがタムシバと教えてくれた。今度はタムシバ、タムシバ。タムシバの花を十分楽しむことができた。

けっこう疲れただらだら道の下り

朝は緩やかな斜面が歩き易かったが、帰りは疲れているせいか長く思われた。まだ着かない、まだ着かない、と思う。

水場を過ぎた地点で「登山口2.3km」の標識を見て愕然とする。登りと同じく「忍」の1字で進むしかない。がまん、がまん。

最後はトイレ希望者が数人走り出した。自分も考えたが4人目で前に出た。駐車場の301を見た時はほっとした。

終わりよければ・・

ヒバクラ登山口を午後1時30分出発。忘れ物があり森吉山荘に寄る。通り道なので時間はかからない。昼食は11時前だった。お腹が空いてきた。宿へは3時間30分かかる予定。Sリーダーがコンビニに寄るようにしてくれ、「皆さん、自分へのご褒美に何でも好きなものをどうぞ。」と言った。それぞれの好物を購入し、皆さんご機嫌で車に乗った。あと3時間。

あと2時間位の地点で宿へ連絡をした。「到着が5時半ごろになります。」。皆さん安心してお話をしたり、窓の外の景色を楽しんだりしながら気持ちよく車に揺られていた。

あと20分位の地点でS田さんが「国道397号線が県境で工事のため通行止め」を発見。Sリーダーが宿へ確認すると、そうだとする。「それさあ、早く言ってよ〜。」の気分。予約の時でも、遅れる連絡の時でも、「念のために。」と教えてくれる機会があったはず・・。

気持ちを切り替え、せっかく来た道に戻る。一番大変なのは運転のOサブリーダー。感謝しかない。

秋田道を東へ進み東北道へ。水沢ICで下り397号線を東から西へ進む。

6時20分、焼石アクアパークひめかゆに到着。皆さんテキパキと荷物を降ろし次の行動の準備をして待つ。スタッフの方がサウナ風呂や朝食バイキングの話をしてくれるが、それどころではない。Sリーダーが目の中の内湯に入るように言い、朝食弁当を4時に用意してくれるように頼んでくれた。

たぶん6時30分過ぎにはお風呂に向かっていたと思う。汗を流し温泉につかると疲れがほぐれていくのが分かった。

7時30分、夕食会場へ。御品書きもあり懐石風のお洒落な夕食だった。御造りは後から冷たいものが出され、揚げ物や茶わん蒸しは熱々が運ばれる。

支配人の方から連絡不十分のお詫びにと、地元産どぶろくのサービスがあった。生ビール1杯で十分と感じていたが、せっかくなのでいただいていた。甘酒感覚で口当たりがよく飲みやすいが、あとから効いてくる。盃1杯をゆっくり楽しんだ。

8時30分にはお開きになった。自分はSリーダーに頼まれたものを分けるために早々に部屋へ戻った。分けているとA西さんとK澤さんがフロントのコーヒーを持ってきてくれた。有難い。

分けたものを皆さんに届けに行く。その間にA西さんとK澤さんが食器を洗ってくれていた。昨日に引き続いだ。これにも感謝。

やることをやったので布団に入る。A西さんとK澤さんが話をするのを聞きながら眠気が来るのを待つ。気持ちよく時間が過ぎる。たぶん、9時30分頃には寝付いたと思う。

終わりよければすべてよしなのかなと思った1日だった。

(福島 記)

15日 雨後曇り時々晴れ 中沼登山口から銀名水避難小屋経由で姥石平のお花畑まで登り、強風の為焼石岳登頂は断念し中沼登山口まで下山後帰路につく

ひめかゆ温泉 5:00～中沼登山口 5:35/6:20～中沼 7:05～銀名水避難小屋 8:10/8:30～姥石平 9:35/10:20～銀名水避難小屋 11:10/11:55～中沼 12:45/12:55～中沼登山口 13:25/13:35＝ひめかゆ温泉 14:05/14:10＝那須高原 SA18:00/18:30＝栃木市運動公園P19:30

「明け方まで雨は降るが日中は曇り、昼頃から晴れ」という昨夜の予報を期待し、5時に宿を出発しました。尿前林道を走ること35分、中沼登山口に着くと、既に3人の男性がいて登山準備をしていました。



上空は雲が切れ間なく流れ、時折強い雨が降り、止みそうで止まぬ強い雨にリーダーはどうしたものかと少し考えている様子です。「天気は必ず良くなる！」スパッツや合羽を装備し待つこと30分、予定より45分遅れていざ出発！歩き出して30分も経たぬうちに雨は止み休憩して衣服調整をします。

もう合羽は不要、脱いだ時のなんと涼しいこと。その後、中沼に向かって進みますが、時折雲の間から陽が差し、思ったよりも明るくなりました。雨に濡れた草木がキラキラ光ってとても綺麗で、コバイケイソウやリュウキンカの花が生き生きとしています。風はかなり強く、湖面には大きな波が立っています。

木道はそれほど濡れては無く歩きやすいけれど、慎重に注意しながら進みます。

途中雪解け一番に咲く水芭蕉やショウジョウバカマなどを見ながら上沼を過ぎます。沢の中を歩いたり雪の中を歩いたり、日頃経験のない登山道を歩きますが、シラネアオイやリュウキンカ、ミズバショウの花々に癒され楽しく歩けます。避難小屋手前の急な雪渓に苦戦しましたが、1時間半休憩もせずに来てしまいました。ここで小休止して果物をいただき、昼食用の荷物を小屋に置いて少し身軽になり、お花畑に向け出発しました。ここからはリーダーが先頭です。3度の長い大雪渓をアイゼンは付けずに進みます。



途中少し幅広沢を渡るのにヒヤッとしましたが、リーダーがサポートしてくれたのでスムーズに越えられました。石がゴロゴロした沢も、水芭蕉やリュウキンカ・シラネアオイの花を見ると疲れも何処かへ行ってしまい約1時間があっという間でした。

姥石平はハクサンイチゲが満開、その白いハクサンイチゲに混じり咲いているピンクのタカネシオガマもとても可憐な花でした。時折フワッと雲が晴れ、一面のお花畑が現れると圧巻です。焼石岳も見ることができました。一度は頂上を目指そうとしましたが、ガスが深く強風の為登頂は断念しました。

姥石平のお花畑を周遊して下山します。

雪渓の下り方をレクチャーしてもらい、皆危なげなく下ります。行きは苦戦した沢の渡渉が何処だったかさえ気づかないくらい石の沢も軽快に下ります。天気も良いので、避難小屋下のベンチで昼食にしました。



美味しく楽しい昼食は・・・少々割愛します。

中沼までの下りは、登りとは違った景色に改めて驚きます。時間の経過で花が咲き、遠くの景色も一望でき、新しい花も見つけ大はしゃぎ。行きに見つけた花々もゆっくり見る余裕もあります。気を取られ転びそうにもなりました。((笑)

3日間天候に恵まれ、東北の『花の百名山』3座を踏破することができ最高でした。沢山の花々に迎えられ、不精の私も多くの花の名前を覚えることができました。高山に咲く代表的な花々、その山ならではの群生している花、めったに見られない貴重な花など色々ありましたが、どの花も愛らしく素敵で山の景色、表情を創り出していました

。カッコウやウグイス、セミの鳴き声も心安らぎ、大変楽しい良い思い出ができました。

追伸: 今回のパーティの皆さん、山行中はもちろん、宿でも車中でも大変お世話になりました。3日間がアツという間で、とても楽しかったです。

ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。また是非よろしくお願いします。

S・K 記

